

# 三重県

定数：4名

立候補者数：3名



氏名 南出 光章

都道府県士会 三重県

年齢 56

勤務先名称 しおりの里デイケアセンター



氏名 伊藤 卓也

都道府県士会 三重県

年齢 44

勤務先名称 鈴鹿医療科学大学

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成13年～現在 三重県理学療法士会理事  
 平成21年～30年 副会長（事務局長）  
 平成31年～ 会長  
 平成21年～31年 東海北陸ブロック理学療法士連絡協議会 監事  
 平成31年～ 東海北陸ブロック理学療法士連絡協議会 理事  
 令和5年～ 東海北陸ブロック理学療法士連絡協議会 代表理事  
 平成21年 第44回日本理学療法士協会全国学術研修大会 in 三重 会場部副部長  
 平成24年 第28回東海北陸理学療法学会 準備委員長  
 平成24年～平成25年 （公社）日本理学療法士協会 政治参加特別委員会委員  
 平成24年～現在 （公社）日本理学療法士協会 代議員  
 平成30年 第34回東海北陸理学療法学会 副大会長  
 平成31年～令和2年 （公社）日本理学療法士協会 グランドデザイン検討委員  
 令和3年～令和4年 グランドデザイン作業部会部会員

三重県理学療法士会の理事として平成13年から携わってきました。その間、北勢ブロック長として士会員に対しての学術知識向上を図り、また三重県理学療法士学会の準備委員長、第24回東海北陸理学療法学会の準備委員長として士会活動をおこなってきました。また任意団体であった三重県理学療法士会の一般社団法人化を推進しました。平成31年4月からは会長となり、地域からも必要な理学療法士会と言われるよう尽力したいと考えます。地域包括ケアへのかかわり、介護予防分野へのかかわり、またスポーツ分野へのかかわりなど活動をおこなっていきたく思います。また今後も協会の組織力強化は必要であり、行政や他団体また政治の世界へも物の言える団体へと進め、理学療法士の地位向上・職域の拡大の観点から、訪問リハビリテーションの確立、予防分野に対しての理学療法から予防理学療法への参画、産業理学療法、スポーツ理学療法など協会事業を進めていきたく思います。

### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【士会】  
 平成17-19年 三重県理学療法士会学術局学会運営部長  
 平成20年 第44回日本理学療法士協会全国学術研修会渉外局広報部長  
 平成25年 第25回三重県理学療法学会準備委員長  
 平成26-31年 三重県理学療法士会社会局地域包括ケアシステム推進部長  
 平成27年-現在 三重県理学療法士会理事  
 平成29年 第34回東海北陸理学療法学会大会準備委員長  
 平成31年-現在 三重県理学療法士会副会長・事務局長  
 令和2年 第31回三重県理学療法学会 学会長  
 【協会】  
 平成29-30年 診療報酬・介護報酬改定に関する有識者会議委員  
 平成31-令和1年 認定・専門理学療法士制度構築委員会委員  
 令和3年-現在 理学療法士労働環境委員会委員  
 令和5年-現在 士会支援事業運営部会部会員

三重県理学療法士会では、これまで学術局、社会局において活動してきました。平成26年からは、地域包括ケアシステム推進部長として、ダイハツとの共同事業、県士会員への地域包括ケアシステムの啓蒙活動、行政や他団体との渉外活動、医療介護総合確保基金における事業などを協会と連携しながら取り組んできました。このような事業は、協会との連携がなければ成功させることはできなかったと感じています。理学療法士や県士会に求められる役割は変化してきています。今後はさらに協会と県士会が強固な連携体制を構築する必要があると考えます。このような体制を構築しながら、地域包括ケアシステムはもちろんのこと、管理者人材育成、予防分野、小児分野、スポーツ（障がい者含む）分野、在宅分野などの協会事業を進めていきたく考えています。



氏名 山下 佳孝

都道府県士会 三重県

年齢 47

勤務先名称 村瀬病院

#### 協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【協会役員歴】

令和2年～現在 日本理学療法士協会 代議員

【士会役員歴】

平成20年 三重県理学療法士会 学術局教育部員

平成21年～令和4年 三重県理学療法士会 学術局教育部長

平成27年～現在 三重県理学療法士会 理事

令和5年～現在 三重県理学療法士会 学術局長

【立候補の趣旨】

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補させていただきます山下佳孝と申します。三重県理学療法士会では生涯学習制度を中心とした学術活動に携わらせていただき、令和2年度からは日本理学療法士協会代議員の活動にも携わらせていただいております。その経験の中で理学療法士を取り巻く学習環境は大きく様変わりしており、オンラインで行う学習のメリットやデメリット、そして対面研修でしか得ることのできない技術や経験もあります。そのような学びの場を、少しでも多くの会員が学びやすいと感じられる環境にしていく必要があると考えます。また、国民や我々理学療法士の多様化するニーズが刻々と変わりゆく中で、理学療法士が果たすべき役割や責任について士会員の意見を反映させ、日本理学療法士協会と共に考え、より良いものにしていくために日本理学療法士協会代議員として引き続き活動していきたいと考えております。よろしくご意見申し上げます。